

委員長及副委員長選舉

○大正八年三月十八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

二階堂三郎左衛門

委員長 侯爵

德川 圀順

副委員長

荒井賢太郎

會議

第一回 大正八年三月十八日

出席委員

委員長 侯爵

德川 圀順

副委員長

荒井賢太郎

委員 子爵

松平 承

同 子爵

本多忠鋒

同 男爵

矢吹 省三

同

仁尾惟茂

出席政府委員

大藏省主稅局長

松本重威

大藏書記官

勝正憲

專賣局長官

野中清

開會 午前十時二十九分

○委員長侯爵德川圀順 開會ヲ宣告ス

(參照)

煙草專賣法中改正法律案

煙草專賣法中左ノ通改正ス

第二十條ノ二 政府ハ煙草耕作者ノ組織スル組合又ハ其ノ聯合組合ニ對シ專賣事務執行上必要

ナル施設ヲ爲シ又ハ其ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ組合又ハ聯合組合ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ交付金ヲ下付スル

コトヲ得

附則

本法ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

織物消費稅法中改正法律案

織物消費稅法中左ノ通改正ス

第二十二條 政府ハ織物ノ製造者又ハ販賣者ノ組織スル組合ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ
 又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得
 前項ノ組合ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ取扱ヒタル織物中消費稅ヲ賦課シタル織物ノ價
 額ノ千分ノ一以内ノ金額ヲ交付スルコトヲ得

附則

本法ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長侯爵德川圀順 休憩ヲ命ス

休憩 午前十一時十二分

開會 午後一時五分

○委員長侯爵德川圀順 開會ヲ宣告ス

○委員長侯爵德川圀順 散會ヲ命ス

散會 午後二時三分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

煙草專賣法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正八年三月十八日

右特別委員長

侯爵 德川 圀順

貴族院議長公爵德川家達殿

織物消費稅法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正八年三月十八日

右特別委員長

侯爵 德川 圀順

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 侯爵 德川 圀順 印
 副委員長 荒井賢太郎 印

大正八年三月十八日
特別委員會
委員
吉井 幸藏
野村 益三
八條 隆正
小野田 元瀨
外松 孫太郎
澤柳 政太郎
高田 早苗
木場 貞長
磯部 四郎

私立學校用地免租ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

○大正八年三月十五日議長ノ指名ヲ以テ私立學校用地免租ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト
左ノ如シ

- | | | |
|----|-----|-----|
| 伯爵 | 吉井 | 幸藏 |
| 子爵 | 野村 | 益三 |
| 子爵 | 八條 | 隆正 |
| 男爵 | 小野田 | 元瀨 |
| | 外松 | 孫太郎 |
| | 澤柳 | 政太郎 |
| | 高田 | 早苗 |
| | 木場 | 貞長 |
| | 磯部 | 四郎 |

委員長及副委員長選舉

○大正八年三月二十日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	吉井幸藏
副委員長	子爵	野村益三

第一回 大正八年三月二十日

會議

出席委員	委員長	伯爵	吉井幸藏	副委員長	子爵	野村益三
	委員	子爵	八條隆正	同	同	澤柳政太郎
	同	木場貞長	同	同	同	磯部四郎

出席國務大臣

大藏大臣	男爵	高橋是清
文部大臣		中橋徳五郎

出席政府委員

大藏省主稅局長	松本重威
---------	------

文部省普通學務局長

赤司鷹一郎

開會 午前九時二十五分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

(參照)

私立學校用地免租ニ關スル法律案

第一條 左ニ掲クルモノノ用ニ供スル土地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ有料借地ハ此ノ限ニ在ラス

一 私立ノ幼稚園、小學校、中學校、高等女學校、實業學校、專門學校、高等學校及大學
二 前號ニ掲ケサル私立學校ニシテ大藏大臣ニ於テ指定シタルモノ

第二條 前條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スヘキ土地ハ校舍及寄宿舎、圖書館其ノ他保育又ハ教育上必要ナル附屬建物ノ敷地並運動場、實習用地其ノ他直接ニ保育又ハ教育ニ限ル但シ收益ヲ生スル土地ニ付テハ大藏大臣ハ免租スヘキ區域ヲ制限スルコトヲ得

第三條 北海道府縣市區町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ免租セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

附則

本法ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長伯爵吉井幸藏 散會ヲ命ス

散會 午前十時二十二分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

私立學校用地免租ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正八年三月二十日

右特別委員長

伯爵 吉井 幸藏

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 吉井 幸藏 印

副委員長 子爵 野村 益三 印

大正六年度豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

大正六年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

大正六年度特別會計豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

大正六年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

大正六年度大正三年臨時事件豫備費支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

大正六年度帝國鐵道特別會計積立金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

大正六年度帝國鐵道特別會計積立金外ニ於テ豫算超過支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右七件特別委員會

委員選舉

○大正八年三月十五日議長ノ指名ヲ以テ大正六年度豫備金支出ノ件、大正六年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、大正六年度特別會計豫備金支出ノ件、大正六年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、大正六年度大正三年臨時事件豫備費支出ノ件、大正六年度帝國鐵道特別會計積立金支出ノ件、大正六年度帝國鐵道特別會計積立金外ニ於テ豫算超過支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

委員長及副委員長選舉

○大正八年三月十八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

會議

委員長	石井省一郎
副委員長	中島永元

子爵	青木信光
男爵	村上敬次郎
男爵	毛利五郎
男爵	清水資治
男爵	岩倉道俱
	石井省一郎
	中島永元
	伊藤傳七
	伊丹彌太郎

第一回 大正八年三月二十日

出席委員

委員長	石井省一郎	副委員長	中島永元
委員	男爵 村上敬次郎	同	男爵 毛利五郎
同	男爵 清水資治	同	男爵 岩倉道俱
同	伊藤傳七	同	伊丹彌太郎

出席國務大臣

大藏大臣 男爵 高橋是清

出席政府委員

鐵道院理事	永井亨
總領事	藤田敏郎
內務省參事官	山縣治郎
大藏書記官	佐々木謙一郎
陸軍主計總監	田中政明

開會 午前十時二十五分

○委員長石井省一郎 開會ヲ宣告ス

(附記一) 議案浩瀚ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

(附記二) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長石井省一郎 散會ヲ命ス

散會 午前十一時四十四分

第二回 大正八年三月二十一日

出席委員

委員長 石井省一郎

副委員長

中島永元

海軍主計大監	久野工
司法書記官	近藤三郎
文部書記官	山崎達之輔
農商務書記官	中井勵作
逓信書記官	中西四郎

委員 子爵	青木信光	同	男爵	村上敬次郎
同 男爵	毛利五郎	同	男爵	清水資治
同 男爵	岩倉道俱	同		伊藤傳七

出席政府委員

鐵道院理事	永井亨
朝鮮總督府事務官	河內山樂三
臺灣總督府事務官	菊池武芳
關東都督府事務官	永山善之助
總領事	藤田敏郎
內務省參事官	山縣治郎
大藏書記官	佐々木謙一郎
大藏書記官	河田烈
陸軍主計總監	田中政明
陸軍一等主計正	鶴淵仙助

開會 午後一時十九分

○委員長石井省一郎 開會ヲ宣告ス

○委員長石井省一郎 散會ヲ命ス

散會 午後二時十三分

第三回 大正八年三月二十四日

出席委員

委員長	石井省一郎	副委員長	中島永元
委員 子爵	青木信光	同	男爵 村上敬次郎
同	男爵 毛利五郎	同	男爵 清水資治

海軍主計大監	久野工
司法書記官	近藤三郎
文部書記官	山崎達之輔
農商務書記官	中井勵作
遞信書記官	中西四郎

同	男爵 岩倉道俱	同	伊藤傳七
---	---------	---	------

出席政府委員

鐵道院理事	永井亨
朝鮮總督府事務官	河内山樂三
總領事	藤田敏郎
大藏次官	神野勝之助
大藏書記官	佐々木謙一郎
大藏書記官	河田烈
專賣局長官	野中清
陸軍主計總監	田中政明
陸軍一等主計正	鶴淵仙助
司法書記官	近藤三郎
農商務書記官	中井勵作
戰時保險局技師	伊藤萬太郎

開會 午前十一時二十七分

○委員長石井省一郎 開會ヲ宣告ス

○委員長石井省一郎 散會ヲ命ス

散會 午後零時四分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

大正六年度豫備金支出ノ件

大正六年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正六年度特別會計豫備金支出ノ件

大正六年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正六年度大正三年臨時事件豫備費支出ノ件

大正六年度帝國鐵道特別會計積立金支出ノ件

大正六年度帝國鐵道特別會計積立金外ニ於テ豫算超過支出ノ件

右承諾スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

遞信省通信局長

中川健藏

大正八年三月二十四日

右特別委員長

石井省一郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長

石井省一郎印

副委員長

中島永元印

(附記)

地租條例中改正法律案ハ大正八年三月十七日連繫事件トシテ其ノ審査ヲ耕地整理法中改正法律案特別委員ニ付託セラル

委員長及副委員長選舉

○大正八年三月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 男爵 武井 守正
副委員長 岡田 良平

會議

第一回 大正八年三月十九日

出席委員

委員長	男爵	武井	守正	副委員長	岡田	良平
委員	伯爵	川村	鐵太郎	同	子爵	大宮
同	子爵	米津	政賢	同	同	谷
同	同	室田	義文	同	同	湯
						淺
						倉
						平

出席政府委員

大藏省主稅局長	松本	重威
農商務省農務局長	道	家齊
農商務技師	有	勳良夫

開會 午後一時三十二分

○委員長男爵武井守正 開會ヲ宣告ス

(參照)

耕地整理法中改正法律案

耕地整理法中左ノ通改正ス

第一條中第三號ヲ第四號トシ「前二號」ヲ「前三號」ニ改メ左ノ一號ヲ加フ

三 開墾又ハ湖海ノ埋立若ハ干拓ニ依ル耕地整理ニ附隨シテ行フ整理施行地ノ利用ニ關スル

必要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ施設

第五條中「消滅シタルトキハ」ノ下ニ「帝室及國ヲ除クノ外」ヲ加フ

第九條中「登記所」ノ下ニ「漁業ニ關スル登録官廳」ヲ加ヘ「耕地整理組合ノ組合長、組合副長」ヲ

(小事ハ衆議院ノ修正)

「耕地整理組合若ハ耕地整理組合聯合會ノ組合長組合副長若ハ聯合會會長聯合會副會長」ニ改ム
 第十四條第二項中「二十年以上三十年以内」ヲ「四十年」ニ、但書中「十年以内」ニ改ム
 第十四條ノ二中「五十年以内」ヲ「六十年」ニ、「十年以内」ヲ「二十年」ニ、但書中「十年以内」ニ改ム
 第十五條中「九年」ヲ「二十年」ニ、第三號中「十年目」ヲ「二十一年目」ニ改ム
 第十六條中「九年」ヲ「二十年」ニ改ム

第二十五條中「訴訟ノ目的タリ又ハ整理施行地區ニ編入後訴訟ノ目的ト爲リタル爲」ヲ「訴訟ノ目的タル爲」ニ改ム

第二十五條ノ二 整理施行地ニ付存スル漁業權カ登録シタル先取特權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ第二十七條ノ二ノ規定ニ依リ補償金ヲ拂渡スヘキトキハ整理施行者ハ其ノ金額ヲ供託スヘシ但シ先取特權者又ハ抵當權者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス
 前項ノ規定ハ整理施行地ニ付存スル漁業權又ハ入漁權カ訴訟ノ目的タル爲訴訟當事者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス
 登録シタル先取特權若ハ抵當權ヲ有スル者又ハ訴訟當事者ハ前二項ノ規定ニ依リ供託シタル金銭ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十七條ノ二 整理施行地ニ付漁業權存スル場合ニ於テハ漁業權者ニ對シ、漁業權及入漁權存スル場合ニ於テハ漁業權者及入漁權者ニ對シ整理施行者ハ整理施行ニ依リ生スヘキ損害ヲ補償スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル補償ヲ受クル權利ハ漁業權者及入漁權者共同シテ之ヲ有スルモノトス
 整理施行者ハ前二項ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲シタル後ニ非サレハ工事ニ着手スルコトヲ得ス但シ其ノ損害ノ補償ヲ受クル權利者ノ同意ヲ得タルトキ、第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ供託ヲ爲シタルトキ又ハ第八十七條第三項ノ規定ニ依リ決定ヲ得タル金額ヲ供託シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條中「前條」ヲ「第二十七條」ニ改ム

第四十條ノ二 整理施行地區カ數府縣ニ涉ル場合ニ於テハ本法中地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ關係地方長官中主務大臣ノ指定スルモノ之ヲ行フ

第五十條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ土地所有者中共有者アル場合ニ於テハ各共有地ニ付共有者總數ノ二分ノ一以上ニシテ其ノ持分ノ三分ノ二以上ニ當ル者ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ共有地ニ付同意アリタルモノト

看做ス

第六十一條中第十號ヲ第十一號、第十一號ヲ第十二號トシ左ノ一號ヲ加フ
十 耕地整理組合聯合會ヲ設ケ、聯合會ニ加入シ又ハ聯合會ヲ脱退スル事
第八十條中「二十年迄延期スルコトヲ得」ヲ「五十年以内ト爲スコトヲ得」ニ改ム

第二章ノ二 耕地整理組合聯合會

第八十一條ノ二 耕地整理組合ハ登記手續ニ關スル事項ヲ除クノ外其ノ事業ノ一部ヲ他ノ耕地整理組合ト共同シテ行ハムトスル場合ニ於テ之ヲ代リ行ハシムル爲協議ニ依リ設計書及規約ヲ作リ地方長官ノ認可ヲ得テ耕地整理組合聯合會ヲ設クルコトヲ得
聯合會ハ法人トス
聯合會其ノ所屬組合ノ増減ヲ爲サムトスルトキハ各組合ノ協議ニ依リ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ聯合會ニ會長一人及副會長一人又ハ數人ヲ置ク
第四十二條ノ二、第四十六條、第五十一條乃至第五十四條、第五十七條乃至第五十九條第一項、第六十條、第七十三條乃至第七十五條及第七十七條乃至第八十一條ノ規定ハ聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第五十九條第一項中土地所有者トアルハ組合、第七十三條中組合員トアルハ聯合會

合會所屬組合ノ組合員トス

第八十三條中「組合長若ハ組合副長」ヲ「組合長組合副長若ハ聯合會會長聯合會副會長」ニ、「組合ノ解散」ヲ「組合組合聯合會ノ解散」ニ改ム

第八十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

第二十七條ノ二第一項ノ規定ニ依ル補償金ニ付亦前二項ニ同シ

第九十一條中「耕地整理組合ノ組合長若ハ組合副長」ヲ「組合長組合副長若ハ聯合會會長聯合會副會長」ニ改ム

第九十一條ノ二中「耕地整理組合ノ組合長、組合副長」ヲ「組合長、組合副長、聯合會會長、聯合會副會長」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前第十四條及第十四條ノ二ノ規定ニ依ル許可アリタル土地ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

地租條例中改正法律案

地租條例中左ノ通改正ス

第十六條第二項中「十年目」ヲ「二十一年目」ニ、第三項中「三十年以内」ヲ「四十年」ニ、第四項中「十年以内」ヲ「二十年」ニ、第五項中「五十年以内」ヲ「六十年」ニ、第六項中「三十年以内」ヲ「四十年」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前第十六條第一項ノ届出ヲ爲シ又ハ同條第三項乃至第六項ノ許可ヲ受ケタル土地ニ關シテハ仍ホ従前ノ例ニ依ル

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長男爵武井守正 散會ヲ命ス

散會 午後三時四十八分

第二回 大正八年三月二十日

出席委員

委員長	男爵	武井守正	副委員長	岡田良平
委員	伯爵	川村鐵太郎	同	子爵
				大宮以季

同	子爵	米津政賢	同	同	谷森眞男
同	室田義文	同	同	湯淺倉平	

大藏書記官

勝正憲

農商務省農務局長

道家齊

農商務省山林局長

鶴見左吉雄

農商務技師

有働良夫

開會 午前九時十六分

○委員長男爵武井守正 開會ヲ宣告ス

○委員長男爵武井守正 散會ヲ命ス

散會 午前十時二分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

耕地整理法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

委員長及副委員長選舉

○大正八年三月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

男爵	辻	太郎
	加太	邦憲
	福永	吉之助
	菅原	通敬
	市來	乙彦
	永田	秀次郎
	安田	善三郎

委員長	伯爵	松木	宗隆
副委員長		古市	公威

會議

第一回 大正八年三月十九日

出席委員

委員長	伯爵	松木	宗隆	副委員長		古市	公威
委員	子爵	榎本	武憲	同		內田	嘉吉
同	男爵	阪谷	芳郎	同		水野	鍊太郎
同	男爵	斯波	忠三郎	同	男爵	辻	太郎
同		加太	邦憲	同		福永	吉之助
同		菅原	通敬	同		市來	乙彦
同		永田	秀次郎	同		安田	善三郎

出席國務大臣

內務大臣 床次竹二郎

出席政府委員

內務次官 小橋一太

內務書記官 池田宏

開會 午後一時三十五分

○委員長伯爵松木宗隆 開會ヲ宣告ス

(參照)

都市計畫法案

第一條 本法ニ於テ都市計畫ト稱スルハ交通、衛生、保安、經濟等ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ増進スル爲ノ重要施設ノ計畫ニシテ市ノ區域内ニ於テ又ハ其ノ區域外ニ互リ執行スヘキモノヲ謂フ

第二條 前條ニ規定スル市ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス其ノ市ノ都市計畫區域ハ關係市町村及都市計畫委員會ノ意見ヲ聞キ主務大臣之ヲ決定シ内閣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 都市計畫、都市計畫事業及毎年度執行スヘキ都市計畫事業ハ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ主務大臣之ヲ決定シ内閣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 都市計畫委員會ノ組織、權限及費用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 都市計畫事業ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政廳之ヲ執行ス

主務大臣特別ノ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ニ非サル者ヲシテ其ノ出願ニ依リ都市計畫事業ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第六條 都市計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ國、公共團

體ヲ統轄スル行政廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政廳ニ非サル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス

主務大臣必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其ノ受クル利益ノ限度ニ於テ前項ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第七條 主務大臣必要ト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ公共團體ノ負擔スヘキ毎年度ノ金額ノ最低限度ヲ定ムルコトヲ得

第八條 公共團體ハ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツル爲左ノ特別稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ府縣費ヲ市ニ分賦スル場合ニ於テ市カ營業稅、雜種稅又ハ家屋稅ヲ賦課スルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ其ノ稅率ヲ定ムヘシ

一 地租割 地租百分ノ十二半以內

二 國稅營業稅割 國稅營業稅百分ノ十七以內

三 營業稅、雜種稅又ハ家屋稅 各府縣稅十分ノ四以內

四 其ノ他勅令ヲ以テ定ムルモノ

公共團體ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ公共團體ノ他ノ收入ヲ以テ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツ

ルコトヲ得

第九條 都市計畫區域内ニ存スル國有河岸地ニシテ公共ノ用ニ供セサルモノハ第六條ノ費用ヲ負擔スル公共團體ニ之ヲ下付スルコトヲ得

第十條 都市計畫區域内ニ於テ市街地建築物法ニ依ル地域又ハ地區ノ指定、變更又ハ廢止ヲ爲ストキハ都市計畫ノ施設トシテ之ヲ爲スヘシ

都市計畫區域内ニ於テハ市街地建築物法ニ依ル地域及地區ノ外土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ風致又ハ風紀ノ維持ノ爲特ニ地區ヲ指定スルコトヲ得

第十一條 第十六條第一項ノ土地ノ境域内又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ指定スル地區内ニ於ケル建築物、土地ニ關スル工事又ハ權利ニ關スル制限ニシテ都市計畫上必要ナルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 都市計畫區域内ニ於ケル土地ニ付テハ其ノ宅地トシテノ利用ヲ増進スル爲土地區劃整理ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ土地區劃整理ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外耕地整理法ヲ準用ス

第十三條 都市計畫トシテ内閣ノ認可ヲ受ケタル土地區劃整理ハ認可後一年内ニ其ノ施行ニ着

手スル者ナキ場合ニ於テハ公共團體ヲシテ都市計畫事業トシテ之ヲ施行セシム

前項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付耕地整理法ヲ準用シ難キ事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十四條 地方長官土地區劃整理ノ設計ニ關スル認可ヲ爲ス場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ定ム

第十六條 道路、廣場、河川、港灣、公園其ノ他勅令ヲ以テ指定スル施設ニ關スル都市計畫事業ニシテ内閣ノ認可ヲ受ケタルモノニ必要ナル土地ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項土地附近ノ土地ニシテ都市計畫事業トシテノ建築敷地造成ニ必要ナルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

第十七條 都市區劃整理ノ爲又ハ衛生上若ハ保安上ノ必要ニ依ル建築物ノ整理ノ爲必要アルトキハ建築物其ノ他ノ工作物ヲ收用スルコトヲ得

第十八條 前二條ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外土地收用法ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依ル土地收用法ノ適用ニ付テハ前條ノ工作物ハ之ヲ土地ト看做ス

第十九條 第六十條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ付テハ第三條ノ規定ニ依ル都市計畫ノ認可ヲ以テ土地收用法ニ依ル事業ノ認定ト看做ス

第二十條 土地收用法第二十二條第一項ノ協議調ハサル場合又ハ其ノ協議ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ事業執行者ハ主務大臣ノ裁定ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得ス
前二項ノ規定ハ損失ノ補償ノ協議ニ關シテハ之ヲ適用セス

第二十一條 第九條ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル土地及第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用シタル土地ノ處分及管理ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 都市計畫事業ニ依リ生シタル營造物ノ管理ニ付特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ管理者ヲ定ム

第二十三條 行政執行法第五條及第六條ノ規定並之ニ基キテ發スル命令ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ私人ノ義務ニ屬シテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ行政廳カ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ私人ノ義務ニ屬スル負擔金其ノ他ノ費用ハ行政廳國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位並其ノ追徵還付及時效ニ付テハ行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第二十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

附 則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則及大正七年法律第三十六號並之ニ基キテ發シタル命令ハ之ヲ廢止ス

第二十九條 東京市區改正條例及東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ヲ受クル市ハ

第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタルモノト看做ス

第三十條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號ニ依リ内閣ノ認可ヲ受ケタル設計又ハ議定シタル事業ハ各本法ニ依リ内閣ノ認可ヲ受ケタル都市計畫又ハ都市計畫事業ト看做ス

第三十一條 東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則若ハ大正七年法律第三十六號又ハ之ニ基キテ發シタル命令ニ依リ爲シタル處分ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ牴觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分ト看做ス

第三十二條 東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ニ依リ行政廳ノ爲シタル處分ニ關シテハ同規則第一條第二項乃至第四項ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第三十三條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號大正七年勅令第百八十四號ニ依リ下付ヲ受ケタル官有ノ河岸地ハ其ノ下付ヲ受ケタル市ノ所有ニ屬スル間地租ヲ免除ス但シ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終リタルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ河岸地ヨリ收入スル金額ハ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終ル迄之ヲ他ニ支出スルコトヲ得ス

第一項ノ河岸地ノ下付ヲ受ケタル市ハ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得ス但シ己ムヲ得サル場合ニ於テ都市計畫委員會ノ議決ヲ經テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

市街地建築物法案

第一條 主務大臣ハ本法ヲ適用スル區域内ニ住居地域、商業地域又ハ工業地域ヲ指定スルコトヲ得

第二條 建築物ニシテ住居ノ安寧ヲ害スル虞アル用途ニ供スルモノハ住居地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

第三條 建築物ニシテ商業ノ利便ヲ害スル虞アル用途ニ供スルモノハ商業地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

第四條 工場、倉庫其ノ他之ニ準スヘキ建築物ニシテ規模大ナルモノ又ハ衛生上有害若ハ保安上危険ノ虞アル用途ニ供スルモノハ工業地域内ニ非サレハ之ヲ建築スルコトヲ得ス

主務大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ建築物ニシテ著シク衛生上有害又ハ保安上危険ノ虞アル用途ニ供スルモノニ付テハ工業地域内ニ於テ其ノ建築ニ付特別地區ヲ指定スルコトヲ得

第五條 前三條ニ規定スル建築物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 前四條ノ規定ノ適用ニ付テハ新ニ建築物ノ用途ヲ定メ又ハ建築物ヲ他ノ用途ニ供スルトキハ其ノ用途ニ供スル建築物ヲ建築スルモノト看做ス

第七條 道路敷地ノ境界線ヲ以テ建築線トス但シ特別ノ事由アルトキハ行政官廳ハ別ニ建築線ヲ指定スルコトヲ得

第八條 建築物ノ敷地ハ建築線ニ接セシムルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 建築物ハ建築線ヨリ突出セシムルコトヲ得ス但シ建築線カ道路幅ノ境界線ヨリ後退シテ指定セラレタルモノナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ建築物ノ前面突出部又ハ基礎ハ道路幅ノ境界線ヲ超エサル範圍内ニ於テ建築線ヨリ之ヲ突出セシムルコトヲ得

第十條 行政官廳ハ市街ノ體裁上必要ト認ムルトキハ建築線ニ面シテ建築スル建築物ノ壁面ノ位置ヲ指定スルコトヲ得

第十一條 建築物ヲ建築スル場合ニ於ケル其ノ高又ハ其ノ敷地内ニ存セシムヘキ空地ニ關シテハ地方ノ狀況、地域及地區ノ種別、土地ノ情態、建築物ノ構造、前面道路ノ幅員等ヲ參酌シ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十二條 主務大臣ハ建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ衛生上又ハ保安上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條 主務大臣ハ火災豫防上必要ト認ムルトキハ防火地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル防火設備又ハ建築物ノ防火構造ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

防火地區内ニ於テハ建物ノ部分ヲ爲ス防火壁ハ土地ノ疆界線ニ接シ之ヲ設クルコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ學校、集會場、劇場、旅館、工場、倉庫、病院、市場、屠場、火葬場其ノ他命令ヲ以テ指定スル特殊建築物ノ位置、構造、設備又ハ敷地ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十五條 主務大臣ハ美觀地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ美觀上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條 主務大臣ハ建築物ノ工事執行ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十七條 行政官廳ハ建築物左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ除却、改築、修繕、使用禁止、使用停止其ノ他ノ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

一 保安上危険ト認ムルトキ

二 衛生上有害ト認ムルトキ

三 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ建築物ヲ建築シタルトキ

第十八條 本法適用區域ノ設定若ハ變更、地域若ハ地區ノ指定若ハ變更其ノ他ノ場合ニ於テ從來存在スル建築物カ其ノ後新ニ建築セラレタリトセハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スヘキモノナルトキハ行政官廳ハ相當ノ期間ヲ指定シ其ノ建築物ニ付前條ニ掲クル必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル措置ヲ命スルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ建築物所在地ノ公共團體ヲシテ損失ヲ補償セシム

前項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クヘキ者補償金額ニ付不服アルトキハ其ノ金額決定ノ通知ヲ受ケタル日より三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第十九條 建築主、建築工事請負人、建築工事管理者又ハ建築物ノ所有者若ハ占有者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ二千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 前條ノ規定ハ前條ニ掲クル者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者其ノ營業ニ關シ前條ニ規定スル違反ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前條ニ掲クル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ營業ニ關シ前條ニ規定スル違反ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

前條ニ掲クル者法人ナルトキハ明治三十三年法律第五十二號ヲ準用ス

第二十一條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第二十二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十三條 本法適用ノ區域ハ勅令ヲ以テ指定スル市、區其ノ他ノ市街地トス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ其ノ定ムル所ニ依リ前項ノ市街地ノ外ニ互リ本法適

用ノ區域ヲ定ムルコトヲ得

第二十四條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ建築工事中ノ建築物、建築工事ニ着手セサルモ設計アル建築物又ハ建築物ニ非サル工作物ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第二十五條 本法ノ全部又ハ一部ノ適用ヲ必要トセサル建築物ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 本法ニ於テ道路ト稱スルハ幅員九尺以上ノモノヲ謂フ

道路ノ新設又ハ變更ノ計畫アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ計畫ノ道路ハ之ヲ道路ト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下做之

○委員長伯爵松本宗隆 散會ヲ命ス

散會 午後三時四十六分

第二回 大正八年三月二十日

出席委員

委員長	伯爵	松本宗隆	副委員長	古市公威
委員	子爵	榎本武憲	同	男爵 山中信儀
同	同	内田嘉吉	同	男爵 阪谷芳郎
同	同	水野鍊太郎	同	男爵 斯波忠三郎
同	男爵	辻太一郎	同	加太邦憲
同	同	福永吉之助	同	菅原通敬
同	同	市來乙彦	同	永田秀次郎
同	同	安田善三郎		
出席國務大臣			內務大臣	床次竹二郎
出席政府委員			內務次官	小橋一太
			內務書記官	池田宏
			大藏省主稅局長	松本重威

開會 午前九時二十九分

○副委員長古市公威 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵松木宗隆 散會ヲ命ス

散會 午前十一時一分

第三回 大正八年三月二十四日

出席委員

委員長	伯爵	松木宗隆	副委員長	古市公威
委員	子爵	榎本武憲	男爵	山中信儀
同	同	内田嘉吉	同	水野鍊太郎
同	男爵	斯波忠三郎	同	男爵
同	同	福永吉之助	同	菅原通敬
同	同	市來乙彦	同	同

出席政府委員

內務次官

小橋一太

內務書記官

池田宏

開會 午前十時二十三分

○委員長伯爵松木宗隆 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵松木宗隆 散會ヲ命ス

散會 午前十時四十一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

都市計畫法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正八年三月二十四日

右特別委員長

伯爵 松木宗隆

貴族院議長公爵徳川家達殿

市街地建築物法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正八年三月二十四日

右特別委員長

伯爵 松木宗隆

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 伯爵 松木宗隆印

副委員長 古市公威印

司法代書人法案特別委員會

委員選舉

○大正八年三月十七日議長ノ指名ヲ以テ司法代書人法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵 柳原義光

子爵 山脇玄

子爵 舟橋遂賢

子爵 東坊城徳長

子爵 伊東祐弘

淺田徳則

柴田家門

男爵 佐竹義準

藤本閑作

委員長及副委員長選舉

○大正八年三月二十一日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

會議

第一回 大正八年三月二十六日

出席委員

委員長	伯爵	柳原義光	副委員長	山脇玄
委員	子爵	舟橋遂賢	同	子爵
同	子爵	伊東祐弘		東坊城德長

出席政府委員

開會 午後一時九分

內務省警保局長	川村竹治
司法次官	鈴木喜三郎
司法省法務局長	豐島直通
司法省參事官	山内確三郎

○委員長伯爵柳原義光 開會ヲ宣告ス

(參照)

司法代書人法案

- 第一條 本法ニ於テ司法代書人ト稱スルハ他人ノ囑託ヲ受ケ裁判所及檢事局ニ提出スヘキ書類ノ作製ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ
- 第二條 司法代書人ハ地方裁判所ノ所屬トス
- 第三條 司法代書人ハ地方裁判所長ノ監督ヲ受ク
- 地方裁判所長ハ區裁判所判事ヲシテ司法代書人ニ對スル監督事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得
- 第四條 司法代書人タルニハ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 第五條 司法代書人ハ地方裁判所長ノ定ムル書記料ヲ受ク
- 第六條 司法代書人ハ事務所ヲ設ケ地方裁判所長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 第七條 司法代書人ハ正當ノ事由アルニ非サレハ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第八條 司法代書人ハ當事者ノ一方ノ囑託ニ依リテ取扱ヒタル事件ニ付相手方ノ爲ニ書類ノ作製ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 司法代書人ハ其ノ業務ノ範圍ヲ超エテ他人間ノ訴訟其ノ他ノ事件ニ關與スルコトヲ得ス

第十條 司法代書人ハ其ノ取扱ヒタル事件ヲ漏泄スルコトヲ得ス但シ裁判所又ハ檢事局ニ於テ訊問ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 司法代書人其ノ業務上ノ義務ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ地方裁判所長ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ左ニ掲クル處分ヲ爲スコトヲ得

一 業務ノ禁止又ハ停止

二 五百圓以下ノ過料

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ノ處分ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長伯爵柳原義光 休憩ヲ命ス

休憩 午後一時四十五分

開會 午後一時五十三分

○委員長伯爵柳原義光 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵柳原義光 散會ヲ命ス

散會 午後一時五十七分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

司法代書人法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正八年三月二十六日

右特別委員長

伯爵 柳原義光

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 柳原義光印

副委員長 山脇 玄印

農工銀行法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正八年三月二十日議長ノ指名ヲ以テ農工銀行法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | |
|----|-------|
| 子爵 | 水野直 |
| 子爵 | 片桐貞央 |
| | 前田正名 |
| 男爵 | 徳川厚 |
| 男爵 | 中島久萬吉 |
| 男爵 | 島津健之助 |
| | 藤田四郎 |
| | 鮫島武之助 |
| | 中村圓一郎 |

委員長及副委員長選舉

○大正八年三月二十四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

會議

第一回 大正八年三月二十四日

出席委員

委員長 子爵 片桐 貞央

副委員長

藤田 四郎

委員 男爵 德川 厚

同 男爵

島津健之助

同 鮫島武之助

同

中村圓一郎

出席委員外議員

小野田 元熙

出席政府委員

大藏省銀行局長

小野 義一

開會 午後一時三十三分

○委員長子爵片桐貞央 開會ヲ宣告ス

(參照)

農工銀行法中改正法律案

農工銀行法中左ノ通改正ス

第六條第五號中「二十人以上」ヲ「十人以上」ニ改ム

第十三條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ据置年限ハ相手方ノ希望ニ依リ之ヲ定メサルコトヲ得

第十三條ノ二年賦償還期限前天然事變其ノ他避クヘカラサル事故アリタルトキハ五箇年以内ニ於テ更ニ据置年限ヲ定ムルコトヲ得

○委員子爵片桐貞央 本案ニ付政府委員ヨリ大體ノ説明アラムコトヲ求ム

○政府委員小野義一 第六條ニ於テ連帶信用貸ヲ得ル場合ノ條件ニ付現行法ハ二十人以上ノ債務者ヲ要スルヲ改正案ニ於テ十人以上ニテ足ルコトト減少セムトス是レ地方ノ寒村僻地ニ於テハ信用組合ノ進歩遅遅タルヨリ此ノ種ノ貸出ヲ要スル場合多シ然ルニ其ノ地方ニ於テハ性質ノ淳正ナル小農工業者二十人以上ノ申合セヲ爲スコトハ頗困難ナリ故ニ其ノ人數ヲ半減シテ適當ナ

ル債務者ヲ選擇スルノ道ヲ開カムトハ農工銀行ノ希望スル所ニシテ大藏省ハ之ニ賛成シタリ次ニ第十三條ニ規定スル貸付金ノ年賦償還ノ据置年限ニ付テハ債務者ノ便利ヨリスレハ或ハ貸付後一箇月ニシテ直ニ年賦償還ヲ開始スルコトヲ利益トスルカ如キ場合アリ或ハ又据置年限ヲ定メサルコトヲ希望スルコトモアリ故ニ是等ノ場合ニ處スルコトヲ得シムル爲改正ヲ企ツルモノトス而シテ第二項ノ規定ト同様ナル規定ハ日本勸業銀行法中ニモ之ヲ存ス最後ニ第十三條ノ二ハ中間据置ニ關スル規定ニシテ曾テ櫻島爆發ノ時農工銀行ノ債務者カ一時償還ヲ猶豫セラレタキコトヲ願出テタル事例アリ凡ソ年賦償還期限前天災地變等已ムヲ得サル事故アリタルトキニハ更ニ据置期間ヲ定ムルヲ得シメサレハ却テ債權者及債務者ノ不利ヲ來スコトアリ故ニ本案ハ此ノ點ヲ考慮シ相當ノ改正ヲ加ヘムトスルモノナリ

○委員藤田四郎 最近兩三年來農工銀行ノ存立困難トナレリトカ或ハ之ヲ日本勸業銀行ト合併スヘシトカノ噂アリ之ニ對スル政府ノ所見如何

○政府委員小野義一 此ノ問題ニ付テハ前内閣時代ヨリ調査中ナリ

○委員藤田四郎 然ラハ調査中ニシテ未決定ニ至ラスト考ヘテ宜シキヤ

○政府委員小野義一 然リ

○委員子爵片桐貞央 委員外議員小野田元瀨ヨリ本案ニ關シ質疑ヲ爲スノ許可ヲ求メタルヲ以テ之ヲ許可シテ異議ナキヤヲ諮フ

異議ナシ

○委員外議員小野田元瀨 全國ニ於ケル農工銀行ノ資本總額並其ノ内府縣ノ引受ケタル株式ノ金額如何、農工銀行ト日本勸業銀行トノ貸付金額ノ制限及貸金ニ對スル利子歩合ノ差異如何、府縣ノ引受ケタル株式ニ對シテハ銀行ノ創立初期ヨリ十五年間ハ利益配當ヲ要セス又其ノ期間經過後五年間ハ府縣ノ引受株ニ對スル配當金ヲ準備金中ニ繰入ルヘキモノナルヲ以テ農工銀行ハ二十箇年間補助ヲ受ケタルニ等シ政府ノ所見如何、創立二十一年後ニ至レハ前述ノ配當金ハ府縣ノ歲入ニ入ルコトトナル地方受持ハ配當トナルヤ積立金トナルヤ、府縣引受ノ高ヲ府縣ニ配當シテ可ナリヤ

○政府委員小野義一 全國農工銀行ノ公稱資本額六千五百五十萬圓ニシテ拂込資本額五千五百五十一萬圓ナリ又府縣ニ於テ引受ケタル資本額ハ八百二十七萬八千六百二十圓ナリ、貸付金額ノ制限ニ付テハ法文ニハ何等ノ規定ナシ即銀行ノ資金ヲ貸付クル場合ニ於テハ別ニ制限ナシ唯實際ニ於テ大口ノ貸付ハ日本勸業銀行之ヲ行ヒ小口ノ貸付ハ農工銀行之ヲ行フニ過キス然ルニ大

藏省預金部ノ低利資金ヲ貸付クル場合ニハ日本勸業銀行ニ在リテハ三萬圓以上トシ農工銀行ニ在リテハ其ノ以下ノ額トスル區別ヲ存ス貸付金ノ利率ハ現在ニ於テ日本勸業銀行ノ公共團體ニ貸付ケタルモノ年六分五厘ニシテ農工銀行ニ於テ代理貸付ヲ行ヒタルモノ年七分乃至八分ナリ又府縣ノ引受ケタル株式ニ對シ十五箇年間ハ配當ヲ要セス其ノ後五箇年間ハ配當金ニ相當スル金額ヲ準備金ニ繰入ルヘク二十箇年ヲ經過シタル後ニ於テ他ニ株式ト同一ノ利益配當ヲ爲スヘキモノトス府縣ハ其ノ配當金ヲ收入ニ繰入ルルモノトス

○委員外議員小野田元熙 農工銀行補助法ノ規定ニ依リ農工銀行カ創立以來二十箇年間ニ得ル所ノ金額ハ何程ナリヤ

○政府委員小野義一 年額七十二萬圓ナリ但シ此ノ金額ハ現在ノ配當歩合ニ依リ年九歩ト看做シ算定ス

○委員外議員小野田元熙 之ヲ半年期毎ニ計算セハ多額トナラム

○政府委員小野義一 然リ

○委員外議員小野田元熙 農工銀行ハ之ヲ細民ノ金融機關タラシムル爲ニ設立シタルモノニ非スヤ其ノ設立ノ趣旨如何

○政府委員小野義一 各府縣ニ於ケル農工資金ヲ圓滑ニ疏通シ且産業組合ニ類似スル用ヲ爲サシメムトテ設立セラレタルモノナリ然レトモ産業組合ノ性質ヲ有スルモノニハアラス

○委員外議員小野田元熙 農工銀行ハ特ニ法律ヲ以テ恩典ヲ與ヘラル然ラハ日本勸業銀行ニ於ケルト同様其ノ貸付ニ關シテハ手數料等ヲ徴セサルヲ以テ適當トスヘキカ如何

○政府委員小野義一 農工銀行ノ貸付額ハ小口ナルヲ常トスルカ故ニ手數料ヲ徴セサルコトハ困難ナラム又日本勸業銀行ハ債券發行權ヲ有シ年利率四分八厘ヲ以テ資金ヲ得ルノ利益アリ

○委員外議員小野田元熙 農工業者ニシテ農工銀行ヨリ資金ノ融通ヲ得テ開墾セムトスル場合ニハ一方ニ於テ開墾助成法ニ依リ年六朱ノ助成金ヲ受クルモ開墾資金ニ對シ七分ノ利子ヲ支拂ハサルヘカラストセハ結局一分ノ損失トナルニアラスヤ

○委員中村圓一郎 日本勸業銀行ト農工銀行トニ於ケル貸付歩合ノ差ハ多クハ五厘ナリ代理貸付ヲ爲ス場合ニハ農工銀行ハ保證ノ責ヲ負擔ス又或場合ニ於テハ農工銀行ハ代辦濟ヲ爲スモノナリ

○政府委員小野義一 日本勸業銀行ニ於ケル貸付金利率六分五厘ハ公共團體ニ貸付クル場合ニ於テノミ行ハル個人ニ對スル貸付利率ハ年七分ナリ

○委員藤田四郎 衆議院ニテハ本案ノ外ニ尙改正ヲ希望セシ廉アリタルモ政府ハ今回先ツ此ノ三點ノ改正ニ止メ後日更ニ改正案ヲ提出スヘシト述ヘシヤノ噂アリ如何

○政府委員小野義一 衆議院ニ於テハ定期貸付ノ擴張及債券發行力ノ増加ニ付テ希望アリ然レトモ定期貸付ハ農工銀行ノ業務トシテハ其ノ本旨ニ適セス寧年賦償還貸付ヲ主トスヘキモノナリ又債券發行力ノ増加ニ付テハ農工銀行ノ現況ニ於テ左程必要逼迫セリトハ認ムルヲ得ス依テ大體ニ涉リ調査中ナリトノ答辯アリシノミ

○委員長子爵片桐貞央 本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長子爵片桐貞央 本案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午後二時五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

農工銀行法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正八年三月二十四日

右特別委員長

子爵 片桐 貞央

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 子爵 片桐 貞央印

副委員長 藤田 四郎印

阿片法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正八年三月二十一日議長ノ指名ヲ以テ阿片法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | | | | |
|----|---|---|---|---|
| 伯爵 | 兒 | 玉 | 秀 | 雄 |
| 子爵 | 五 | 條 | 爲 | 功 |
| 子爵 | 藪 | 篤 | 鷹 | 鷹 |
| 子爵 | 米 | 倉 | 昌 | 達 |
| 男爵 | 石 | 黑 | 忠 | 惠 |
| 男爵 | 船 | 越 | 光 | 丞 |
| 男爵 | 千 | 秋 | 季 | 隆 |
| | 山 | 之 | 内 | 一 |
| | 西 | 久 | 保 | 弘 |
| | 道 | | | |

委員長及副委員長選舉

○大正八年三月二十四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

會議

第一回 大正八年三月二十四日

出席委員

委員長	伯爵	兒玉秀雄	副委員長	西久保弘道
委員	子爵	五條為功	同	子爵
同	子爵	米倉昌達	同	男爵
同	男爵	船越光之丞	同	男爵
同	同	山之内一次	同	男爵

出席政府委員
 內務省衛生局長 杉山四五郎

開會 午前十時十六分

○委員長伯爵兒玉秀雄 開會ヲ宣告ス

(參照)

阿片法中改正法律案

(小字ハ衆議院ノ修正)

阿片法中左ノ通改正ス

第三條中「賣下クルモノトス」ヲ「賣下ケ又ハ交付スルモノトス」ニ、「政府ノ賣下ケタル阿片ノ外ハ」ヲ「阿片ハ政府ノ賣下ケタルモノ又ハ交付シタルモノニ非サレハ之ヲ」ニ改ム

第三條ノ二 阿片ハ內務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ヲ輸出スルコトヲ得ス

第五條中「卸賣人」ヲ「醫藥用阿片販賣人」ニ改ム

第六條 醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師又ハ製藥用阿片ヲ要スルトキハ○命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ證明ヲ受ケ

醫藥用阿片販賣人ニ賣渡ヲ請求スヘシ

醫藥用阿片販賣人販賣用ノ阿片ヲ販賣ノ目的以外ニ供セムトスルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受

クヘシ

第六條ノ二 地方長官必要ト認ムルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑

師又ハ製藥者ニ對シ醫藥用阿片ヲ賣下クルコトヲ得

第七條 醫藥用阿片ハ第六條第一項若ハ前條ニ依ル場合又ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク

ノ外醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ處方箋ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第七條ノ二 醫藥用阿片販賣人ハ第六條第一項ニ依ル請求ヲ受ケタル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ醫藥用阿片ノ賣渡ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條ノ三 醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ超エテ醫藥用阿片ヲ販賣スルコトヲ得ス

第八條 醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル醫藥用阿片ノ容器ヲ開披シ若ハ改装シ又ハ封緘ヲ破毀スルコトヲ得ス

醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル醫藥用阿片ニシテ封緘ノ無效トナリタルモノ又ハ容器ヲ改装シタルモノヲ販賣スルコトヲ得ス

第八條ノ二ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ニ依リ賣下ヲ受ケタル阿片ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第八條ノ三 官廳又ハ官立ノ病院若ハ學校ニ於テ阿片ヲ要スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ交

付ヲ受クヘシ

第九條 第三條第二項又ハ第三條ノ二ニ違背シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

阿片ヲ輸入シタル者罰前項ニ同シ

第十條 第三條第二項ニ違背シテ所有又ハ所持スル阿片ハ之ヲ沒收ス

第十條ノ二 第一條、第六條第二項、第七條乃至第八條又ハ第八條ノ二第二項ニ違背シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 削除

第十二條ノ五 第十二條ノ二又ハ第十二條ノ三ニ依ル場合ニ於テハ懲役、禁錮又ハ拘留ニ處スルコトヲ得

第十二條ノ六 第十二條ノ二乃至第十二條ノ四ノ規定ハ第九條ノ犯罪ニ付之ヲ適用セス

第十三條中「醫藥用阿片卸賣人」ヲ「醫藥用阿片販賣人」ニ改ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ醫藥用阿片卸賣人タル者ハ第五條ニ依リ指定ヲ受ケタル醫藥用阿片販賣人ト看做ス

本法施行ノ際現ニ醫藥用阿片卸賣人ニ非サル藥劑師又ハ藥種商ニシテ醫藥用阿片ヲ所有スルモノハ本法施行ノ日ヨリ三十日內ニ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ買上ヲ請求シ又ハ醫藥用阿片販賣人、醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師又ハ製藥者ニ讓渡スルコトヲ得

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長伯爵兒玉秀雄 散會ヲ命ス

散會 午前十一時四十八分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

阿片法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正八年三月二十四日

右特別委員長

伯爵 兒玉 秀雄

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 伯爵 兒玉 秀雄 印

副委員長 西久保弘道 印

大正四年法律第十六號中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正八年三月二十一日議長ノ指名ヲ以テ大正四年法律第十六號中改正法律案特別委員ヲ選定スル
コト左ノ如シ

- | | |
|----|-------|
| 子爵 | 樋口誠康 |
| 男爵 | 村上敬次郎 |
| 男爵 | 宇佐川一正 |
| 男爵 | 横山隆俊 |
| | 若槻禮次郎 |
| | 勝田主計 |
| | 高橋作衛 |
| | 江原素六 |
| | 田中清文 |

委員長及副委員長選舉

○大正八年三月二十四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 子爵 樋口 誠康
副委員長 男爵 村上敬次郎

會議

第一回 大正八年三月二十四日

出席委員

委員長 子爵 樋口 誠康 副委員長 男爵 村上敬次郎
委員 男爵 横山 隆俊 同 若槻禮次郎
同 高橋 作衛 同 田中 清文

出席國務大臣

陸軍大臣 田中 義一

出席政府委員

大藏次官 神野勝之助
陸軍主計總監 田中 政明

陸軍一等主計正 鶴淵 仙助
海軍主計總監 志 佐 勝

開會 午後一時十九分

○委員長子爵樋口誠康 開會ヲ宣告ス

(參照)

大正四年法律第十六號中改正法律案

大正四年法律第十六號中左ノ通改正ス

「二千四百萬圓」ヲ「五千四百萬圓」ニ改ム

〔附記〕 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長子爵樋口誠康 散會ヲ命ス

散會 午後一時三十七分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

大正四年法律第十六號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正八年三月二十四日

右特別委員長

子爵 樋口 誠 康

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 子爵 樋口 誠 康 印

副委員長 男爵 村上 敬 次 郎 印

大正八年十二月二十一日印刷
大正八年十二月二十四日發行

貴族院事務局

印刷者 中村彌三郎

東京市麴町區內幸町一丁目四番地

印刷所 三 生 舍

東京市麴町區內幸町一丁目四番地

PA137

八
十
二
月

日
四
日

貴
州
軍
事
錄

由
...

甲
...

...





